

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（十五）

野 崎 典 子

今回は、「名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（十四）」（あいち国文）第十四号、令和三年三月、あいち国文の会）に続くものである。第四冊二十丁表（20才）から五十一丁表（51才）までの翻刻を試みた。大半を占める『禁書目録』の翻刻はすでに岡戸武平の紙魚社発行「紙魚」第十五冊（昭和二年十二月）に、汲古会を率いていた大口佩蘭によるもの

魚」紙上のものとは互いに補完するものとなるであろう。今回翻字するにあたっては、字体も出来る限り忠実にと心掛けた。固有名詞が多出するからである。合せ字「伝」ト云）もそのままとした。

〔翻刻〕

禁書目録 全

（白紙）（20才）

紙上の翻刻の最後に「右禁書目録、細野要齋翁の典籍叢談より抄出す。（）を施せるものは、翁の加筆にかかる。（）を附せるものは、今新に註記するところなり。昭和二年十月二十三日、石田元季しるす」とあり、大口氏と石田氏二人の目が通っているものと思われるが、今回の翻刻と「紙

禁書目録序
古来御制禁之唐本和書并二絶板賣買停止之書
其外秘録浮説等之寫本好色本之類ハ片紙小冊たりといへ共かりにも取扱ふへからず常と相慎堅く法令を相守るへき旨毎歳正五九月書肆會集の砌ねん

ころに是を戒めおくといへとも書目数多の事なれハ

一と記憶しかたく或ハ忘却し或は意得たかひも是あるへし
依之今般右之書目古来より傳聞記録する所大抵

其類を分てこれを記し印刻して小冊となし書肆家と二

(21才)

附与し人と常にこれを點検していさ、か疎畧之誤り

なからん事を願ふもの也然りといへとも述作の限なき

見聞の廣からざる此書の載する所或ハ遺脱過誤あらん

も計りかたし是を覽る人其遺たるを補ひ誤れるを

正したまはん事ひとへに是を冀ふもの也

明和八年辛卯五月 京師書林 印

(21ウ)

貞享^乙二年南京船持渡唐本國禁耶蘓書

目錄

或人ノ隨筆ニ遠西書目ト題シテ載タルヲ以テ詳ニ其
異同ヲ校ス朱墨ヲ以テ傍書シ及卷數ヲ記
スルモノ是ナリ又其書

一天學初函
天學初函 代疑篇 交友論 關邪集
以上四部ナシ

一職方外記
圓容較義續篇廿五卷 蓋憲通考
坤輿全圖 渾天儀 白鳩鐘說

一萬物眞原
望遠鏡說 西学或門 天梁坤輿一卷
天經或問後集五卷 聖教約言一卷

一彌撒祭義
南京景物略八卷
以上十一部アリ

一聖記百言
卷尾ニ

一唐景教碑附
右四十四書、肆申椒堂編輯見作者
目錄但本邦此書禁於商賈矣

一簡平儀說記
三十卷

一西學風
五卷

(22才)

一代疑編

一同文筭指

一十慰計開 二卷

一表度說 十四卷

一靈言蠡句 二十二卷

一渾蓋通憲門記 二十六卷

一滌罪正記

一畸人十篇

一天文秘略

一天主實義 一卷

一同續篇 十九卷

一計開

一參泰西水法 十八卷

一二十五言

一明量法義

一七克

一辨學遺蹟 八卷

一三山論學記 十五卷

一圓容較義 一卷

一勾股法義

一交友論

一教要解略 十七卷

一况義 二十四卷

(23才)

一條平儀記 三十一卷

一 奇々圖説

一 福建通志 二卷

一 寶有註 二卷

一 圯緯 四卷

一 關邪集

已上三十八部

一 說

表度説 福建通志

圯説 關邪集

右四品ヲ除キ

門記圖説 帝京景物略 八卷

已上三十六部伝

書本

一 先代舊事本記

一 本朝通鑑

一 萬天實録

一 文露叢

一 柳營秘鑑

一 同續

一 武徳大成

一 御年譜

(23ウ)

一 玉露叢

一 寛明日記

一 甘露叢

一 東榮日録

一 日本中興治乱記

一 異考六通記

一 豊臣實録

一 扶桑見聞私義

一 御年譜附尾

一 同 泰政録

一 難波戦記 數品

一 浪華軍記

一 豊臣記

一 新撰豊臣實録

一 嶋原記

一 秀頼事記

一 武徳安民記

一 國史實録

一 武家盛衰記

一 東照創業記考異

一 松平記

一 松平系圖

一 御當家系圖

(25才)

(25ウ)

(26才)

- 一 三河記
- 一 同 真字
- 一 天草一戰記
- 一 慶長記
- 一 関原記
- 一 同 大全
- 一 慶元通鑑
- 一 関原雜話
- 一 岡崎物語
- 一 日光邯鄲枕
- 一 松平開崇開運錄
- 一 玉的隱顯
- 一 家忠日記
- 一 大坂記
- 一 三河後風土記
- 一 越後通夜物語
- 一 同 侍騷記
- 一 駿府政事記
- 一 由井根元記
- 一 由井實錄
- 一 德河記
- 一 慶長治乱記
- 一 東照宮御遺訓

(26ウ)

(27ウ)

- 一 的露叢
- 一 龜卜書
- 一 主圖合結
- 一 東照宮御縁起
- 一 武邊咄聞書
- 一 赤城盟傳
- 一 西山紀聞
- 一 一介石記
- 一 同 追加
- 一 赤城紀談
- 一 義子文通
- 一 一介淺記
- 一 新撰大石記
- 一 赤穂忠臣記
- 一 寺灯私記
- 一 蓬窓紀談
- 一 復讐物語
- 一 瑞光院記
- 一 義士考
- 一 寺坂之覺書
- 一 忠士絶纓書
- 一 忠義碑文
- 一 慶元冬夏軍記

(28才)

(28ウ)

- 一 忠士筆記
- 一 露適集
- 一 鐘秀記
- 一 義人録 (マ) 卷 室直清
- 一 槿華集
- 一 武家明鏡集
- 一 易水連袂集
- 一 山科之間書
- 一 膽心精義傳
- 一 岩淵物語
- 一 天克日記
- 一 中興續盛衰記
- 一 武家拾要記
- 一 難波戰記後篇
- 一 慶安太平記
- 一 武家嚴制録
- 一 仙臺菘
- 一 秋田杉
- 一 武家隱見記
- 一 諸家大秘録
- 一 明和石曲傳
- 一 阿淡夢物語數品
- 一 浮田物語

(29才)

(30才)

- 一 見語大明撰
- 一 松山實録
- 一 殺法轉輪
- 一 山鳥記
- 一 鳴原實録
- 一 政要實録
- 一 郡上騷動
- 一 嚴秘録
- 一 落穂集 (マ) 册大道寺勇山
- 一 越後騷動
- 一 一切支丹實記
- 一 西山遺事
- 一 姫路騷動
- 一 明和飛日記
- 一 山内幸内 一名風呂敷包
- 一 井伊家傳記
- 一 板倉政要實録
- 一 嚴秘比比噺
- 一 三壺集
- 一 宇津宮金清水
- 一 本朝色鑑
- 一 望遠雜録

(30ウ)

(31才)

(31ウ)

右載する所の外聞書雜録等之写本数多これ有
へしといへとも一と記すに暇あらずすへて

禁庭 將軍家之御事ハいふニ及ハす堂上方武家方

近來之事を記したる書は右目錄にのせすといへとも

堅く取扱ふへからす其外世上浮説にても書牀よろし

からさる書是亦右に准すへし此段人とよくく

勘弁あるへき事也

(白紙) (32才)

絶板之部

一 先代舊事本紀種字板

一 同 板本

或書ニ大成經四十卷絶板也黒瀧ノ潮音ト云者ト
伊雜ノ栞宜ト撰ト云伊勢ノ神藏ヨリ出テ是誠ノ舊事
本紀ナリト撰ト云云當靈院様御代公事ニ成リテ潮
音マケトナリテ板燒捨ルト云是ナル歟

一 禮綱本紀

一 聖德太子五憲法

一 同 頭書

一 聖皇本紀

一 天王寺法叟記

一 案内者

一 日次紀事

一 石田軍記 寛文八歳

一 東國太平記

一 日本人物史

(33才)

一 九州記

一 神宮秘傳問答

一 辨天秘訣

一 五帖目御文章

一 同 半紙平かな

一 百人女郎品定 二卷

一 櫻曾我女時宗

一 色傳授

一 野呂口三味線

一 天満宮傳記

一 邊鄙以知吾

一 耳香きそひ日記

一 太平義臣傳 十四册

一 忠義太平記大全 一名 忠義武道播磨石

宝永八年卯正月

京通り松原上ル丁
菱屋治兵衛板

(34才)

一 忠臣略太平記

一 高名太平記

一 太平義臣記

一 六袒檀經紙糖

一 好色本 享保八年停止

一 新撰碁経

一 碁経字實寶鑑

一 將碁勇士鑑

享保八卯年印本京フヤ町通靈願寺下ル
西川祐信画 八文字ヤ八左エ門板

(33ウ)

一同 手段草

一十種香暗部山

一死出田分言

一至公訓

一温知政要 一卷 尾陽宗春公御作 享保十六癸二月

一三部経 挑溪師改点

一倭文選鬻草

一建武年中行事略解

一忠臣金短册

一金銀割合重寶記

一徂徠先生可成談 半紙本三册 片方ナ書

一夜國繪

一精忠傳

一大掌會便蒙

一斤非扁 半紙本ノ方

一本迹雪謗

一艸書十體千字文

一唐詩國字辨

賣買停止并仲間裁配

一笑今川

一風流東海硯

一都獨案内

(34ウ)

一花櫛嚴柳嶋

一歌曲色紙山

一繪本此手柏

一福引家綜合 同 役者綜合

素人板 并他國板

賣買断有之部

一大般若経 嵯峨板

一花道全書

一正信傷文軌

一指要鈔選翼

一野山名靈集

一天時占候

一温古秘録

一唐詩選

一唐詩句解

一唐詩選掌故

一同 辨書 律詩排律絶句

一同 解雋

一四家雋

一易古註 江戸板

(35才)

(35ウ)

(白紙)

(36ウ) (36才)

(37才)

一 詩經古註 江戸板

一 増註孔子家語 江戸板

一 楚辭王註 江戸板

明和八歳辛卯仲夏日

京師書林印行

當時禁止天學初函三十二書目

畸文

十慰

西學記

交友論

辨學遺牘

七克

幾何原本

弥撒祭義

天文畧

泰西水法

代疑論

表度説

三山論學記

(37ウ)

(38オ)

(38ウ)

(39オ)

(39ウ)

教要解畧

唐景教碑

聖記百言

天主實義

天主續篇

二十五言

職方外記

靈言文算

灵言蠡勾

况義

圓容較義

勾股義

渾盖通憲記

測量法義

万物真原

簡平儀記

滌罪正記

深田正韶云右ハ予ガ曾祖父慎齋君片紙ノ

手記也三十二書ト題言ニアレトモ三十一書ノ書目也

天經式問ハ此三十二書ノ内ナルヲ

有徳院殿天文ニ益アラバ苦シカラズトテ禁ヲ解テ

刊行セシメ玉ヘリト聞故ニ爰ニ天經式問ノ書目

ヲバハブキテアルナラント云々

(40ウ)

(40オ)

(38ウ)

(39オ)

(39ウ)

(41オ)

(41ウ)

進大日本史表

臣治紀言惟

大陽ノ攸照。率土莫不

日域。

皇化所被。環海咸仰。

天朝。

帝王授受ノ

三器徴シ

神聖之謨訓。

寶祚之隆。與天壤無窮。

國家治亂

一統。絶姦穴之窺竄。

威靈之遠。于華夷有光。雖然時運盛衰。蓋

譬諸朝暮。是以人事得失。宜鑒於古今。彰

往考來。有述有作。勸善懲惡。或褒或貶。屬

辭比事。殊方豈無載籍。詳内略外。正史固

存體裁。臣治紀誠惶誠恐頓首頓首。欽惟

皇帝陛下

天祖之正統。

神明其德。照臨八方。

(白紙) (42才)
(白紙) (42ウ)

守聖人之大寶。
寬仁之政。子育群生。

稽古立事。

恭己無為。

播文化之燭於宇内。何人不遵

聖天子之風教。

委獎學之任于閩東。臣等嘗聞大將軍之

家訓。伏念材質愚鈍。學問空疎。徒承

祖之餘蔭。叩膺藩屏。重寄爵忝三位。尸素之

譏難免。官帶參議。轡面之陋是慚。惟此國

史。責在一家。欲竭忠於

本朝。盡追孝于勛人。臣五代祖光國。少好學勇

乎為天。雖身在外。乃心

王室。每慨舊史之闕文。欲修

曆世之實錄。開館聘士。輯錄名山通邑。逸書。

購求之功。馳使幣于遠迩。因人傳

奏

許借

蘭臺石室。秘冊繙閱之勤。忘寢食於晝夜。貫

穿馳馱。集衆技以成效。取舍裁斷。發獨得

之特見。紀志表傳。創立一家之言。筆削信

疑。庶為萬世之鑒。起自

(43ウ)

(44才)

神武一至于明德。叙次

一百代。上下二千載。闡幽顯。微。原。始。要。終。

(44ウ)

陸^ニ

大友ヲ于帝紀。徵^ニ老翁之捧^レ日。列^ニ

神功ヲ于后妃。揭^ニ

真主ヲ於

遺腹。西東之爭。南北之亂。正閏

皇統。唯視^ニ

神器之在^ニ否^ニ。逆順之際。忠奸之別。是非人臣

由^ニ本曲

委由公論而折衷。知^レ我罪我蓋深自任。刊

之正^レ之。有^レ待^ニ將來。爰自^ニ高祖^{綱條}。以至^ニ先父

百年之後稍定。顧^ニ此一家之撰。豈云^ニ三長^{（45才）}

之具^ト。徒閱^ニ星霜。莫^レ竟^ル功緒。先^ニ臣之所^ニ九^后苦

心。愚^ニ臣何^レ敢不^レ竭^レ力。曩^ニ遭^ニ幕府催督^ニ。將^レ使^ニ

史藁上^ニ木。竊顧斯書雖^レ屬^ニ私撰。苟傳^ニ于世^一

有^レ係^ニ

國體。昔初脫^レ稿。假冒^ニ題號。今且鏤^レ版。曷無^ニ

奏請^ニ。乃因^ニ百揆之吹嘘。竊取^ニ

九重之進止^ニ。恭蒙^ニ

天意降鑑^ニ

許^レ俾^ニ書名^ヲ公行^セ。於^レ是累葉^ノ志願。

一朝獲^レ伸^ルヲ。

踊躍奉^ニ。感激無^レ已。速命^ニ剗刷之工。永省

繕寫之勞。先^ニ臣所^レ修大日本史。本紀七十^{（45ウ）}

三卷。列傳一百七十卷。校訂粗完。彫刻未

半。其志表若干。有^レ錄無^レ書者。方且^ニ補修^{セント}猶

未^ニ全備^一。臣愚以為与^下其^下延歲月。全^レ功告上^ニ

竣。不^レ知嚴立^ニ裸程。隋^レ成

呈上。故^ニ今紀傳二十六卷。刊刻已就。裝成^ニ

函^ニ聊先

上送。餘^ト將^ニ續^ヲ

進。謹隨^レ表以

聞。上^ニ塵^ニ

天覽。下情無^レ任。慚懼戰汗。屏營之至。臣治紀誠

惶誠恐頓首頓首謹言

文化七年十一月五日

參議從三位行左近衛權中將^{臣源朝治}上表^{（46ウ）}

參議從三位行左近衛權中將^{臣源朝治}上表^{（47才）}

參議從三位行左近衛權中將^{臣源朝治}上表^{（47ウ）}

參議從三位行左近衛權中將^{臣源朝治}上表^{（47ウ）}

○頭人馬頭人由緒書

頭人由緒之覺

朱鳥元年神劍當

宮還座まします此時宮社を造営し神田を附

せられ諸祭を濫觴し給ふ依之

勅使を以官幣を奉らせ給しより毎歳五月四日五日
勅使代として神官を始中藤社家之年長貳人

正使代を郷代頭人と号し副使代を補代頭人と号し
最初一夜籠より翌年四月濱下り之上潔齋仕翌年

五月迄十八ヶ月都合三ヶ年^三亘り候朝晩之勤神事之
物入勤功を以當日三位^三昇進し
(48才)

神興供奉之上鎮皇門^二登り永宣旨を頂載仕^付
御事^二御座候右今般頭人之由緒御尋被遊候^二付
如此御座候以上

中藤三老 松岡儀大夫

寛政十二申三月

同断 磯部左衛門
同断 長岡圓大夫

馬頭人由緒之覺

朱鳥元年神劍當

宮還座まします此時宮社を造営し神田を附せられ
諸祭を濫觴し給ふ依之年順^二よりて馬頭人相勤申也
朝暮之勤別は二月濱下仕潔齋仕候間

神事之勤物入多ク當日五位昇進し五月
(48ウ)

神興供奉之上鎮皇門^二登り郷代頭人補代頭人
馬頭人三頭人永宣旨之規式任御事^二御座候右

馬頭人之儀御尋被遊候^二付 如此御座候以上

寛政十二年 申三月

神楽座一老 鏡味喜代大夫
祝長 菊田幸福大夫

御答申上候口上之覺

今般馬頭人之儀御尋被遊候処右馬頭人と申名目ハ古来
より

申来候尤由緒有之候由^二而御座候得共千百度相馴不申也
勿論御馬頭人と申は如何之儀^二御座候処相知不申也依
之御答申上候以上
(49才)

神楽座一老 鏡味喜代大夫
寛政十二年 申三月 祝長 菊田幸福大夫

口上之覺

御馬郷人頭人御馬補代頭人と申事既毎歳五月朔日

惣檢校馬場左京役^二而

本宮御内廻廊^二候廳^二

熱田太神宮 廳

差定御祭早令參勤早

五月五日御馬頭人

郷人 実名

補代 実名

馬頭実名

(49ウ)

右任先例早令勤仕之状如件

如此相認候^而御馬頭人申すハ郷補両頭人之事相見へ

申候當日勤方之儀

神與鎮皇門^江出御之供奉仕鎮皇門上^ニおゐて

永宣旨を頂戴夫より馬場渡り^ト申上古より傳來之

御鞍^エ乘馬上^ニ

勅使殿^江參向鬢付^ト申事相濟御門内より又馬上^ニ

鎮皇門^江參向右之通始末古來之御鞍^ニ乘馬上^ニにても

相勤申也御事乱御馬頭人と申候歟又御馬之御之字

崇敬之称とも馬^ニ御すると申事とも兩説御座候

(50オ)

又頭人と申事其年一年納之

神事勤頭故頭人と申候由申傳^ニ御座候いつれ

にも古來より右之通書來り申傳^ニ御座候

以上

中藤三老 長岡圓大夫

申四月

同断

磯部左衛門

同断

松岡儀大夫

御馬頭人之儀馬頭人与申心得^ニ而候哉御尋之儀

承知仕候就夫社輩義相尋候処別昏書付

差出候故申達も候御馬頭人与申ハ郷補兩頭人

(50ウ)

之事^ニ而別昏之通廳張^ニ往古より馬頭と而已

認來り只今^ニ而も廳張^ニ右之通認^メ候義^ニ御座候

尤先年より馬頭と而已申候申傳^ニ御座候得共何時之

比より歟人之字を附馬頭人と申來^リ候儀^ニ御座候

右ハ御尋^ニ付如此御座候以上

四月

千秋加賀守

右者寺社奉行衆ヨリ所問而大宮司所答也 (51オ)

(のどき のりこ)